

2018年（平成30年） 9月7日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

8/23~8/29のNYMEX・WTIは、67.83~69.51ドルの範囲で推移した。

8月30日は、イラク石油販売公社総裁の12月のOPEC会合でイランの代替供給を検討する予定であるとの発言にもかかわらず、根強いイランからの供給削減懸念や前日のEIA米国原油在庫の予想を上回る減少報告などを受けて、続伸し、約1ヶ月ぶりに70ドル台を回復した。10月限終値は前日比0.74ドル高の70.25ドルだった。

週末31日は、米中貿易摩擦再燃の懸念、70ドル回復による利益確定売り、また、前日のEIA月報の6月の米産油量が日量1067万バレルで過去最高水準との報告により、3日振りに反落した。なお、ペーカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数862基(前週比2基増)。10月限終値は前日比0.45ドル安の69.80ドル。

9月3日は、休日につき休場。

連休明け4日は、メキシコ湾岸へのハリケーン襲来情報による供給懸念から、買いが優勢で一時71ドル台を付けたが、ジュンスケープ社のクッシングの原油在庫75万バレル増加報告で売り戻され、小反発に止まった。10月限終値は前週末比0.07ドル高の69.87ドル。

5日は、接近中のハリケーンが勢力を弱め、進路もそれたことから、供給懸念は後退、前日の高値の利食い売り、さらに、バーキンドOPEC事務局長の世界の通商摩擦がエネルギー需要に影響を与える可能性があるとの発言もあって、大幅反落した。10月限終値は前日比1.15ドル安の68.72ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、前週73.20~74.80ドルの範囲で推移した。8月30日75.70ドル、31日76.10ドル、9月3日75.60ドル、4日76.30ドル、5日75.60ドルで推移した。

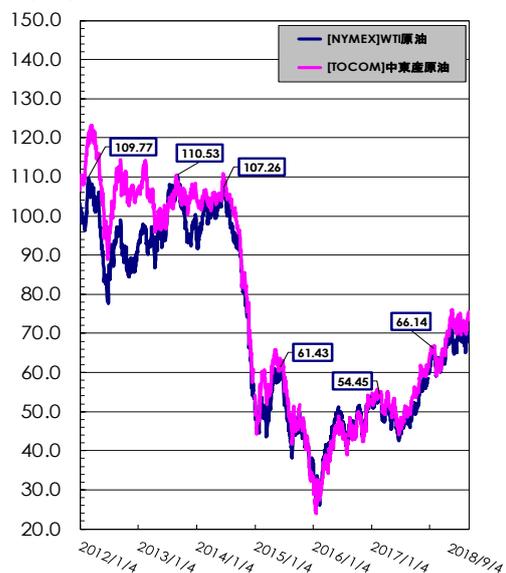
為替は、前週110.78~111.51円の範囲で推移した。8月30日111.76円、31日111.06円、9月3日110.99円、4日111.08円、5日111.52円で推移した。

主要元売会社の9月第1週に適用する卸価格は、全油種2.0~2.5円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、9月3日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油が同0.3円の値上がり、灯油は同3円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、3週ぶりの値上がりだった。この週(8月第4週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに0.5~1.5円の値下げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/26 ~ 9/1	3,588 ▼ -100 ▲	-
	トッパー稼働率 (%)	"	91.6 ▼ -2.6 ▲	-
	原油在庫量 (千kl)	9/1	13,368 ▲ 887 ▲	-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/3	74.67 ▲ 1.10 ▲	24.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/4	69.87 ▲ 1.00 ▲	21.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	77.30 ▲ 0.29 ▲	28.32
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	54,307 ▲ 186 ▲	20,175
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.70 ▲ 0.03 ▼	-0.92
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/3	111.99 ▲ 0.21 ▼	-1.16

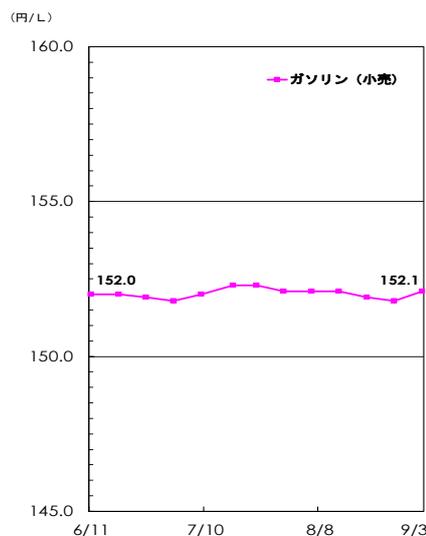
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/26 ~ 9/1	1,039 ▲ 43	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,026 ▲ 94	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	9/1	1,566 ▲ 12	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/28 ~ 9/3	68.0 ▲ 1.5	▲ 18.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/28 ~ 9/3	66.2 ▲ 1.7	▲ 16.6
		(TOCOM/中部)	9/3	66.5 ▲ 1.2	▲ 17.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/3	152.1 ▲ 0.3	▲ 20.7	

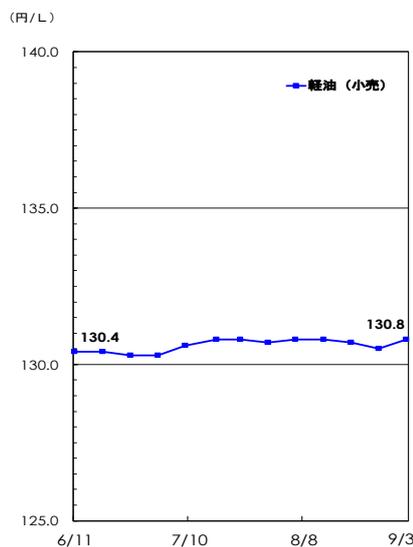
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

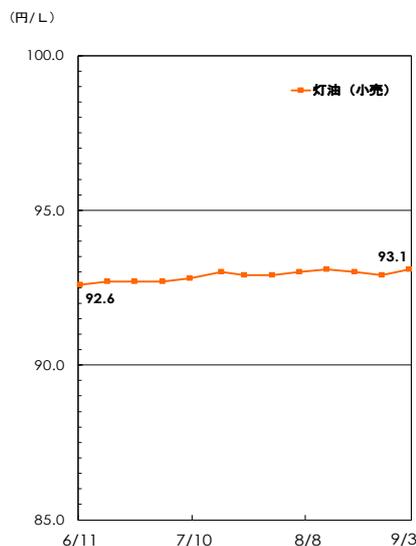
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/26 ~ 9/1	880 ▼ -30	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	620 ▼ -74	▼ -	
	輸出	"	328 ▲ 134	▲ -	
	在庫	9/1	1,574 ▼ -68	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/28 ~ 9/3	68.6 ▲ 1.4	▲ 20.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/28 ~ 9/3	68.8 ▲ 0.7	▲ 20.8
		(TOCOM/中部)	9/3	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/3	130.8 ▲ 0.3	▲ 20.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/26 ~ 9/1	247 ▼ -5	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	145 ▲ 53	→ -	
	輸出	"	5 ▼ -14	▲ -	
	在庫	9/1	2,217 ▲ 96	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/28 ~ 9/3	68.5 ▲ 2.2	▲ 20.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/28 ~ 9/3	69.5 ▲ 2.0	▲ 21.3
		(TOCOM/中部)	9/3	70.0 ▲ 1.0	▲ 21.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/3	93.1 ▲ 0.2	▲ 17.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月5日のNYMEX市場WTI原油は、接近中のハリケーンが熱帯低気圧に勢力を弱め、進路も石油施設集積地域をそれたことから、供給懸念は後退、また、前日の高値の利食い売りもあり、さらに、パーキンドOPEC事務局長が南アフリカでの講演で、今後、世界の通商摩擦が景気の低迷等を通じてエネルギー需要に影響を与える可能性があるとの発言が報じられ、大幅反落した。市場の次の関心は、連休で発表が一日遅れた米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報に移っている模様。10月限終値は前日比1.15ドル安の68.72ドル、11月限の終値は前日比1.14ドル安の68.42ドル

だった。

EIAによると、9月3日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.3セント値下がりの1ガロン2.824ドル(83.4円/ℓ)、ディーゼルは前週比2.6セント値上がりの3.252ドル(96.1円/ℓ)となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年8月26日～9月1日に休止したトッパー能力は0.0万バレル/日で、前週に対して同値であった。(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は358.8万klと、前週に比べ10.0万kl減少。前年に対しては1.4万klの増加。トッパー稼働率は91.6%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては0.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。

ガソリン/4.3%増、ジェット/27.8%増、灯油/2.0%減、軽油/3.3%減、A重油/19.3%増、C重油/7.6%増。今週のC重油の輸入は4.2万kl(前週比2.5万kl減)。軽油の輸出は32.8万kl(前週比13.4万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンの出荷は102.6万kl(対前週10.1%増)と前週比で3週振りで増加となり、2週振りに100万klを上回った。

ジェット19.8万kl(対前週178.9%増)、灯油14.5万kl(対前週57.7%増)、軽油62.0万kl(対前週10.7%減)、A重油21.6万kl(対前週27.6%増)、C重油24.5万kl(対前週56.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (8/26 ~ 9/1)	前週 (8/19 ~ 8/25)	前週比	
ガソリン	1,026	932	▲ 94	(10%)
ジェット燃料	198	71	▲ 127	(179%)
灯油	145	92	▲ 53	(58%)
軽油	620	694	▼ -74	(-11%)
A重油	216	170	▲ 46	(27%)
C重油	245	156	▲ 89	(57%)
合計	2,450	2,115	▲ 335	(16%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月1日時点の在庫は、ガソリン、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは156.6万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては8.2万kl少ない。

灯油は221.7万kl、前週差9.6万kl増。前年に対しては13.9万kl少ない。

軽油は157.4万kl、前週差6.8万kl減。前年に対しては16.0万kl多い。

A重油は73.6万kl、前週差3.7万kl減。前年に対しては4.9万kl少ない。

C重油は203.5万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては12.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/1)	前週 (8/25)	前週比	
ガソリン	1,566	1,554	▲ 12	(1%)
ジェット燃料	1,099	1,126	▼ -27	(-2%)
灯油	2,217	2,121	▲ 96	(5%)
軽油	1,574	1,642	▼ -68	(-4%)
A重油	736	773	▼ -37	(-5%)
C重油	2,035	2,035	➡ 0	(0%)
合計	9,227	9,251	▼ -24	(-0.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月28日から9月3日の原油価格は前週対比で値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン120～122円台で大きく値上がり、軽油67～69円台で大きく値上がり、灯油66～69円台で急騰後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン122～123円台で

横ばい後値下がり、軽油70円台で横ばい、灯油69～70円台で値上がり後やや弱含みで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン119～120円台で値上がり後やや軟化、軽油68～69円台で値上がり後横ばい、灯油68～69円台で出入り後やや値上がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種、全取引で、値上がりした。

9月第2週(9月6日～9月12日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月28日～9月3日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.5円の値上がり、灯油も2.2円の値上がり、軽油も1.4円の値上がり。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.2円の値上がり、灯油も2.6円の値上がり、軽油も0.4円の値上がりだった。

先物価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油も2.0円の値上がり、軽油も0.7円の値上がりだった。

原油価格は値上がりし、為替もわずかに円安で、原油コストは値上がりした。

9月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (8/28 ~ 9/3)	前週 (8/21 ~ 8/27)	前週比
レギュラー	68.0	66.5	▲ 1.5
灯油	68.5	66.3	▲ 2.2
軽油	68.6	67.2	▲ 1.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/28 ~ 9/3)	前週 (8/21 ~ 8/27)	前週比
レギュラー	66.2	64.5	▲ 1.7
灯油	69.5	67.5	▲ 2.0
軽油	68.8	68.1	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/28～9/3実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.5	▲ 1.7	▲ 1.6
灯油	▲ 2.2	▲ 2.0	▲ 2.1
軽油	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 1.0
A重油	▲ 1.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の152.1円、軽油も同0.3円安の130.8円、灯油は同0.2円高の93.1円(18%ベースでは3円高の1,676円)だった。ガソリンは7週ぶりの値上がり、軽油は4週ぶりの値上がり、灯油は3週ぶりの値上がり、ガソリンは5月28日以来15週連続で150円を上回った。都道府県別に、ガソリンの値上がりは33道府県、横ばいは10都県、値下がり4道府県だった。全国最安値は、埼玉県の147.6円(前週比0.5円高)、次が、徳島県の148.0円(前週比1.7円高)、最高値は長崎県の161.7円(同0.4円安)。最も値上がりしたのは、1.7円高の徳島県(148.0円)、最も値下がりしたのは、0.8円安の岡山県(149.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値上げとなった。今週の原油価格は大きく値上がりし、為替レートもやや円安で、原油コストは値上がりした。次週(9月10日)のガソリンの小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (9/3)	前週 (8/27)	前週比	直近高値
レギュラー	152.1	151.8	▲ 0.3	08/8/4 185.1
灯油	93.1	92.9	▲ 0.2	08/8/11 132.1
軽油	130.8	130.5	▲ 0.3	08/8/4 167.4

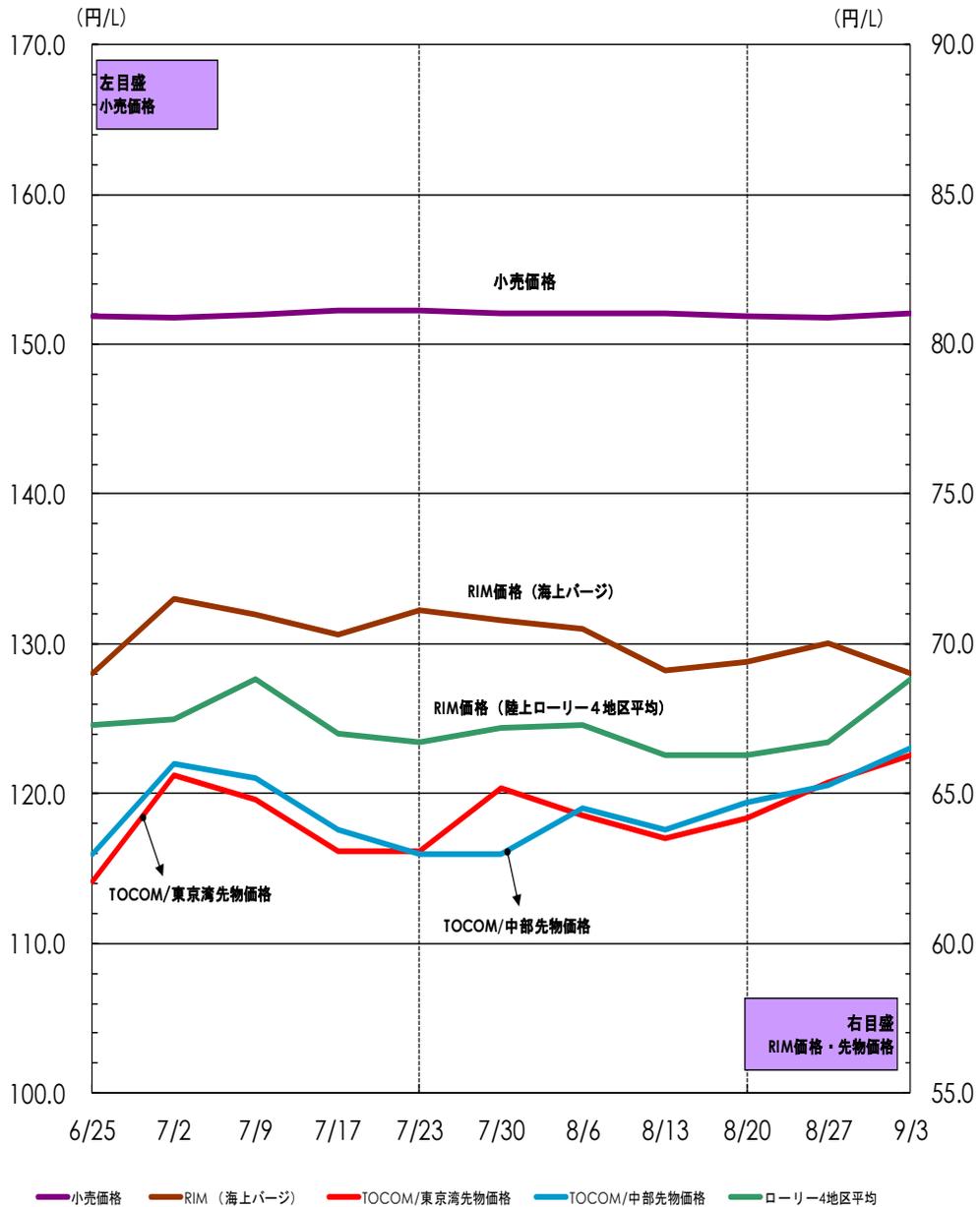
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/6/25 ~ 2018/9/3)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第22号)の公表は、9/14(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。